

徳島県の少子化対策について

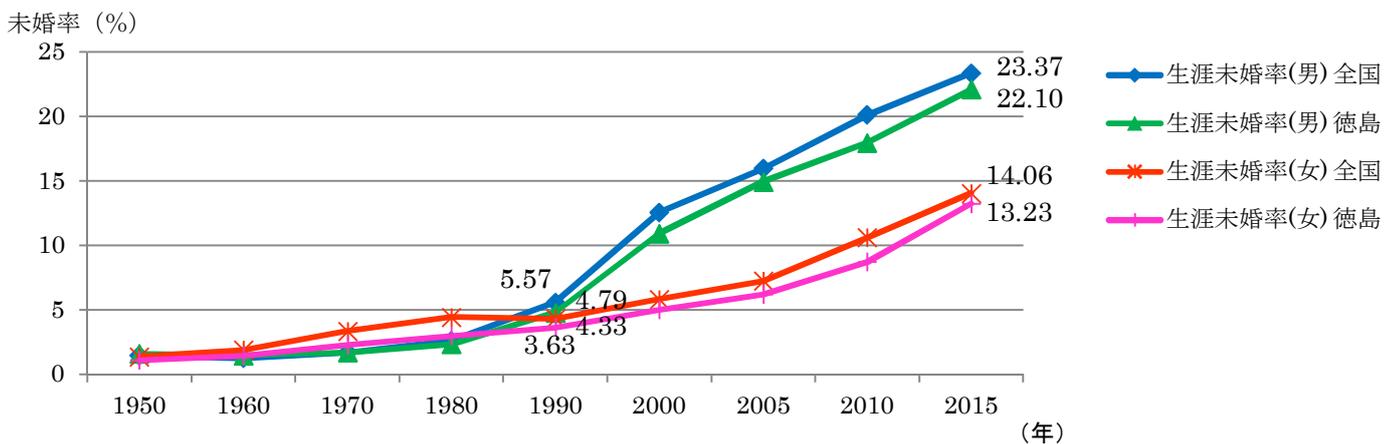
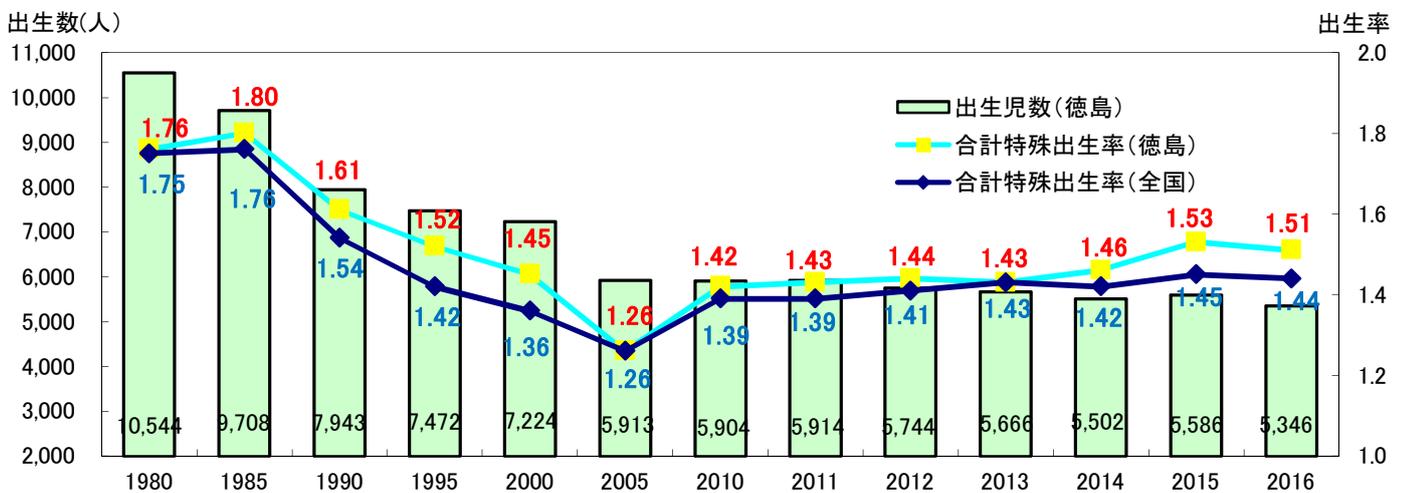
1. 課題(現在の状況)

【現在の状況】

・本県の人口は、1950年の878,511人をピークに減少と増加を繰り返しながら、1999年以降は毎年減少し、国立社会保障・人口問題研究所の推計では、今後も減少傾向が続き、2040年には約571,000人までに減少する見通しであるが、2060年に“60～65万人超”を目指し、「結婚・出産・子育ての環境づくり」など各種施策を推進している。

・出生数は、1980年に10,544人であったものが、2016年は5,346人と約半数近くまで減少している。

・合計特殊出生率は1960年に「2.02」だったが、2005年には「1.26」まで低下した。近年は緩やかな上昇傾向にあるが、依然として、「人口置換水準 2.07」を大きく下回っている状況である。2016年の合計特殊出生率は、前年に比べ0.02ポイント減少、全国平均の「1.44」を0.07ポイント上回る「1.51」となっている。



【課題】

今後も、「人口減少・少子高齢化」の進行が見込まれるなか、若い世代の結婚や出産、子育ての希望が叶い、将来にわたり、喜びを感じられる地域社会の実現を目指し、実効性のある少子化対策を推進する必要がある。

2. 目標(将来像)

2025年に、結婚や出産に関する希望が叶う場合の出生率(希望出生率)1.8の実現を目指す。

3. 取組内容(概要)

2014年10月に、本県単独で創設した10億円の「徳島県少子化対策緊急強化基金」と国の交付金を活用し、「結婚」から「子育て」までの切れ目のない支援による「少子化対策」を推進している。

(1)結婚支援の取組み

- 「とくしまマリッジサポートセンター(略称:マリッサとくしま)」の設置・運営
 - ・「結婚支援システム」を活用した, 出逢いイベント情報の提供や希望する相手との「お見合い」の場のセッティングなど多様な出逢いの場を提供
 - ・「出逢い」から「結婚」までを後押しするボランティアの養成
 - ・婚活スキルアップセミナーや未婚の子を持つ親向け相談会の開催
- 県・市町村連絡会議の設置
- 結婚ポジティブキャンペーンの展開
 - ・結婚をテーマにしたラジオ番組の放送,
 - 「スポット CM」の Web 配信や県内映画館での上映
- イベントコラボ事業
 - ・地域の魅力を体感できる出逢いイベントと実施



オープニングセレモニー

(2)妊娠・出産支援の取組み

- 産前・産後のサポート
 - ・「助産師」による妊婦・母親に対する電話・訪問相談の実施
- 若年層への啓発
 - ・安全・安心な妊娠・出産を含めた妊娠適齢期の正しい知識に基づくライフプランやキャリア形成を行うため, 大学生等を対象とした講演会の開催など早期のライフプラン教育及び正しい知識の普及啓発を推進
- 不妊治療費助成
 - ・医療保険が適用されない特定不妊治療に要する費用の一部を助成



助産師による相談・指導

(3)子育て支援の取組み

- 子育て世帯に対する経済的支援
 - ・子ども(中学校修了まで)の医療費を助成
 - ・第3子以降の「保育料」・「放課後児童クラブの利用料」を無料化
- 保育所・認定こども園の整備促進, 多様な保育サービスの拡充
- 仕事と子育てが両立する働きやすい職場環境づくりの推進
 - ・ママテレワーカーの養成
 - ・イクボス研修の実施
 - ・子育てにやさしい職場環境づくりに取り組む企業を認証・表彰



イクボス研修



小中高校へ出向き, 乳幼児との交流を行う「赤ちゃん授業」

(4)その他

- 産業界, 学界, 民間団体, 行政協働での子育てイベント「おぎゃっと21」の開催(2001年から開催し, 社会全体で子どもの健やかな成長を支援する催しとして定着)
- 県内全域でのファミリー・サポート・センターの整備を完了し, ニーズの高い「病児・病後児」への対応を強化
- 「子育て総合支援センターみらい」を拠点とした, 子育て支援者の育成・活動支援による, 様々な団体による地域での子育て支援の取組を充実



産学官民で子育てイベント「おぎゃっと21」を開催